

2026年第1回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○天ヶ瀬特別

天ヶ瀬（あまがせ）は、京都府宇治市の地域。天ヶ瀬ダムは、淀川支流宇治川の峡谷部に位置するアーチ式ダム。また、洪水調節・発電・上水道供給を担う特定多目的ダム。京滋バイパスを利用することで大津市・比叡山・石山寺にも近く、観光客が多く訪れる。

○寿ステークス

寿（ことぶき）は、祝うべき事柄。また、祝いの言葉や儀式のこと。

○スポーツニッポン賞京都金杯（G III）

本競走は、1963年に創設された『迎春賞』を前身とする重賞競走。1966年に『スポーツニッポン賞金杯』と改称するとともに、別定重量戦となった。その後、1981年にハンデキャップ戦となり、1996年から東西で行われる金杯を区別するため、現在の競走名に改称された。また、2000年には2000mから1600mに短縮された。

スポーツニッポン新聞社は、東京と大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○逢坂山特別

逢坂山（おうさかやま）は、滋賀県大津市西部と京都府の境、比良山中にある山。別名「関山」とも呼ばれる。鈴鹿関、不破関と並んで三関に数えられる逢坂関が置かれ、平安京の防衛に重要な役割を果たした。この関から東の地域を東国、関東と呼んだ。

○門松ステークス

門松（かどまつ）は、正月に家の門口に飾る松の飾り。本来は年神（としがみ）の来臨する時の依り代の意味を持つ。一般的には竹・松などを用いるが、地方によってはナラ・サカキ・シキミなどの常緑樹を用いる。

○万葉ステークス

万葉（まんよう）は、現存する最古の和歌集である「万葉集」の略称。大伴家持が編纂に携わったとされ、仁徳天皇期から淳仁天皇期までの短歌・長歌・旋頭歌など約4,500首が収録されている。

<第3日>

○牛若丸ジャンプステーキス

牛若丸（うしわかまる）は、源平合戦で大活躍した源氏の武将、源義経の幼名。義経は、壇ノ浦の戦いで敵将平教経と遭遇した際に、8艘の船を次々と飛び移ったと伝えられ、その様子は「八艘飛び」の伝説として知られている。

○出町特別

出町（でまち）は、京都市内の地名。桝形通・河原町今出川・寺町今出川の一帯を指す。古くから交通の要衝であり、若狭から鰐を運んだ「鰐街道」の終着点としても知られている。現在も出町商店街は、京都でも有数の規模を誇る商店街として賑わっている。また、近くには高野川、賀茂川の合流する三角州「鴨川デルタ」があり、比叡山や大文字山が望める。

○鹿ヶ谷特別

鹿ヶ谷（ししがたに）は、京都市左京区にある地名。平家一門に反発した後白河院近臣らが、東山鹿ヶ谷の僧俊寛の山荘で計画した平氏打倒陰謀事件である「鹿ヶ谷の陰謀」で知られている。

○すばるステーキス（L）

すばるは、牡牛座にある散開星団、プレアデス星団の和名。数多くの星によって構成されているが、肉眼で確認できる星は6個程度であることから、「六連星（むつらぼし）」とも呼ばれる。

<第4日>

○五条坂特別

五条坂（ごじょうざか）は、清水寺への参道のひとつ。途中で清水新道（茶わん坂）と呼ばれる道と分岐する。かつては清水焼の窯元が数多くあり、現在でも道沿いには陶器店が軒を連ねている。

○新春ステーキス

新春（しんしゅん）は、新年、正月の別称。1954年に国営競馬が日本中央競馬会へと移管されて以来、現存する最も古い競走名のひとつ。

○淀短距離ステーキス（L）

淀（よど）は、京都市伏見区の地名。名は、川の水が淀むことに由来する。宇治川・桂川・木津川の合流点付近を占め、旧河床や自然堤防を利用した野菜栽培が盛んであったが、近年は急速な宅地化が進んでいる。また、京阪電鉄京阪本線の淀駅は、京都競馬場の最寄り駅である。

<第5日>

○琵琶湖特別

琵琶湖（びわこ）は、滋賀県の中央部を占める日本最大の湖。古くは淡海・近江海・鳩（にお）の海などとも呼ばれていた。名は、形状が楽器の琵琶に似ていることに由来する。

○雅ステーキス

雅（みやび）は、洗練されたこと、上品で優美なこと。江戸時代の国学者本居宣長は、平安時代の和歌、物語を含む古代文化の中心にあるものを「みやび」と呼んだ。

○日刊スポーツ賞シンザン記念（GⅢ）

本競走は、シンザン号の栄誉を称え1967年に創設された重賞競走。同馬は、1964年にセントライト号以来23年ぶり、日本競馬史上2頭目の三冠制覇という偉業を達成し、翌年には『天皇賞（秋）』と『有馬記念』も制して五冠馬の称号を得た。引退後も種牡馬として活躍し、1984年に顕彰馬に選出された。

日刊スポーツ新聞社は、東京など全国に5ヶ所の本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○稻荷特別

稻荷（いなり）は、京都市伏見区の山。東山連峰の南端に位置する。西麓には、秦伊呂具（はたのいろぐ）が鎮守神として創建したとされる伏見稻荷大社があり、全国の稻荷神社の総本社として信仰を集めている。山麓から山頂までは、千本鳥居が続いている。

○紅梅ステーキス（L）

紅梅（こうばい）は、紅色の花が咲く梅。梅は、中国原産のバラ科の落葉高木。300種類以上の品種があり、大別して野梅系・緋梅系・豊後系がある。また、「源氏物語」第四十三帖の巻名でもある。花言葉は「忠実」「優美」。

○羅生門ステーキス

羅生門（らしうもん）は、平安京の条坊都市の中央を南北に貫いた朱雀大路の南端に構えられた大門。芥川龍之介の短編小説の題としても有名。

<第7日>

○小倉山特別

小倉山（おぐらやま）は、京都市右京区にある標高296mの山。同山に位置する二尊院は紅葉の名所として知られる。参道は、馬が駆け抜けられるほど広いことから「紅葉の馬場」と称され、小倉山のモミジと参道沿いのカエデを楽しむことができる。

○大津特別

大津（おおつ）は、滋賀県南西部の市。古くから湖上、陸上交通の要衝として栄え、都が置かれたこともあった。市内には延暦寺・日吉大社・石山寺・義仲寺などの寺社のほか、大津京跡・膳所城跡などの史跡も多い。

○日経新春杯（GⅡ）

本競走は、1954年に『日本経済新春杯』として創設された重賞競走。1979年に現在の競走名に改称された。1981年から1993年までは別定重量戦で実施されていたが、1994年以降はハンデキャップ戦に変更されている。

日本経済新聞社は、東京と大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受け実施されている。

<第8日>

○若駒ステークス（L）

若駒（わかごま）は、若い馬のこと。本競走は、春のクラシック戦線を占う一戦として知られている。

○下鴨ステークス

下鴨（しもがも）は、京都市左京区の地名で、賀茂川と高野川にはさまれた地域。下鴨神社があることで有名。同神社は、賀茂御祖（かもみおや）神社の通称。祭神は玉依姫命（たまよりひめのみこと）と賀茂建角身命（かもたけつのみのみこと）。

○睦月ステークス

睦月（むつき）は、陰暦1月の異称。睦び月（むつびつき）ともいう。

<第9日>

○河津桜賞

河津桜（かわづざくら）は、濃いピンク色の花びらを持つ、早咲き桜。京都競馬場の近くを流れる淀水路沿いの約300本もの河津桜は「淀の河津桜」として親しまれ、2月から3月にかけて見頃を迎える。花言葉は「純潔」「精神美」。

○山城ステークス

山城（やましろ）は、京都府南部の旧国名。古くは「山背」と書いたが、山河が襟帶しており、城を成す形をしていることから、794年の平安京遷都時に改字されたと言われている。

○プロキオンステークス（GⅡ）

本競走は、1996年に創設された重賞競走。『東海ステークス』が2025年から関西主場へ移設されたことを機に、競走名を改称した。

第1着馬には同年の『フェブラリーステークス』への優先出走権が与えられる。

プロキオン（Procyon）は、こいぬ座のアルファ星で、シリウス、ベテルギウスとともに「冬の大三角」を形作る恒星。